

経営体に合わせたイチゴの生産振興

要約

- ① 県では、令和元年からイチゴ品種「珠姫」、「奈乃華」、「ならあかり」の品種登録を出願。中部農林振興事務所では、これら品種の普及を図るため、現地栽培適応性を調査。
- ② 明日香村産「アスカルビー」のブランド力向上のため、高品質果実生産に向けた育苗指導や栽培管理指導を実施。加えて、奈良県農畜産物ブランド認証制度による「プレミアムセレクトアスカルビー」の販売拡大のため、PR等の支援を実施。

現状(背景)と課題

- ① イチゴ新系統の産地定着
 - ・奈良県は、イチゴの新品種「珠姫」、「奈乃華」、「ならあかり」の品種登録を出願
 - ・各品種の現地栽培適性は不明な点が多く、生産・販売上の課題を把握し、有利販売方法の検討が必要
- ② 明日香村産「アスカルビー」の販売拡大
 - ・明日香促成苺出荷組合員：21名、栽培面積：約3ha。
 - ・当出荷組合は、市場出荷を主体として、観光農園や直売所での販売など、多様な販売を展開。
 - ・平成28年から奈良県農畜水産物ブランド認証制度による奈良県プレミアムセレクト「アスカルビー」を販売したが、販売数の増加が課題。

目標

- ① 栽培面積
 - 「珠姫」 25a
 - 「奈乃華」 30a
 - 「ならあかり」 10a
- ② プレミアムセレクト販売
 - 箱数 50箱
 - 村内直売所販売額 63,000千円

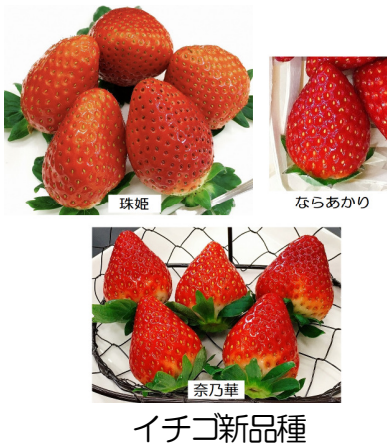


活動内容

- ① イチゴ新系統の産地定着
 - ・各品種の現地栽培適応性調査 調査圃場4カ所設置 月に1回調査
 - ・育苗期の病害発生防止対策 現地巡回指導の実施(96回)、講習会の開催(1回)
- ② 明日香村産「アスカルビー」の販売拡大
 - ・プレミアムセレクト等出荷数の増加
販売拡大のため、生産者、関係機関との販売促進検討会を開催(2回開催)
出荷数増加に向けた現地巡回指導を実施(6回)
 - ・明日香村産「アスカルビー」の品質向上対策
育苗期の病害発生防止、過熟果出荷防止のための摘果推進に係る巡回指導(5回)
講習会の開催(3回)

成果

- ① イチゴ新系統の産地定着
 - ・3品種の作付面積は、「珠姫」36a、「奈乃華」40a、「ならあかり」12aとなり目標面積より増加。
 - ・現地調査結果をとりまとめ、栽培上の特性や育苗管理方法等について栽培者に情報を提供。
- ② 明日香村産「アスカルビー」の品質向上対策
 - ・プレミアムセレクト商材は、主にふるさと納税の返礼品として販売。令和3年度の販売箱数は30箱。
 - ・令和4年産の村内直売所のイチゴ販売額は、約7,160万円で昨年度に比べ増加。



イチゴ新品種



プレミアムセレクトの販売



講習会の開催

普及活動のポイント

- ① 新品種の普及にあたり、農業研究開発センターと連携し、巡回指導時に、栽培上の課題やその対策等について、栽培農家に速やかに情報提供を行った。
- ② 「プレミアムセレクトアスカルビー」の販売前に、販売検討会を開催し、生産者・関係機関の役割を明確にし、生産・販売体制を整備。
出荷物の事故品をなくすため、出荷・調整作業において課題のある生産者を重点的に指導。

対象の変化

- ① 品種特性を理解し、適正な管理を実施。
- ② 明日香村産「アスカルビー」のブランド力向上のため、ほとんどの生産者が適切な育苗管理や、摘果による過熟果発生防止対策を実施。

対象者からのコメント

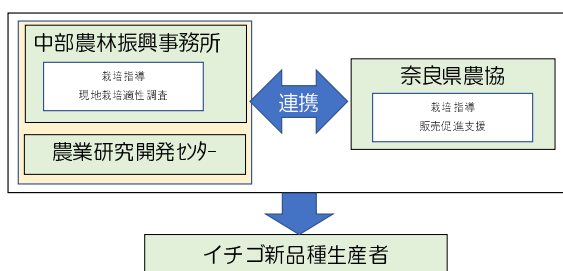
- ① 新品種の栽培方法について、栽培上の課題解決も踏まえて、講習会等を開催してほしい。
- ② 本活動を通じて、明日香村産「アスカルビー」のブランド力を向上させ、経営改善に繋がりたい。

これからの活動ビジョン

- ① 農業研究開発センターと連携して、品種ごとの栽培上の課題を解決。
生産物の出荷・販売方策について、関係者と検討
- ② 「プレミアムセレクトアスカルビー」の販売促進に係るPR方策の検討
育苗期の病害発生防止や過熟果出荷防止に向け、未達成者を重点的に指導

活動体制

①イチゴ新系統の産地定着



②明日香村産「アスカルビー」の品質向上対策

